

**新研究開発施設「Yonex Performance Innovation Center（仮称）」を着工。  
同敷地内に新工場建設も予定し、新潟県長岡市の開発製造拠点を拡張。  
開発、製造のスピード感ある連携強化で新次元の「ものづくり」を生み出す拠点に**



ヨネックス株式会社（代表取締役社長：アリサ ヨネヤマ）は、新潟県長岡市のヨネックス長岡工場隣接地において研究開発施設「Yonex Performance Innovation Center（仮称）」を本日着工し、同敷地内における新工場建設もあわせ、開発、製造拠点の拡張と機能強化を推進することをお知らせいたします。

スポーツが、プロレベルだけでなく、あらゆる層において日々進化する中、研究開発施設「Yonex Performance Innovation Center（仮称）」は、より高度なものづくりの起点として、多様なプレイヤーのプレースタイルを科学的に分析し製品開発に反映させることで、すべてのお客様のパフォーマンスを支えることを目指します。そのため本施設は、最新鋭の解析設備に加え、4大会を想定した4種類の異なるサーフェス（表面）※1のテニスコート、最大8面のバドミントンコート、トレーニング施設を備え、実際の多様なプレー環境におけるプレイヤーの動作や打球の解析が可能となります。さらに、解析情報を隣接する生産施設と連携することで試作や改善のサイクルをスピード感をもって回し、製造に移行できることも特徴です。また、研究開発に加えて、本施設はトップアスリートの練習拠点、ジュニア選手育成の場としても活用し、競技の普及・発展にもつなげてまいります。

同敷地内には主にテニス製造を担う新工場の建設も計画し、2023年11月の着工を予定しております。当社のテニスラケットはトップ選手からの性能への評価が高く、直近のグランドスラム（全豪オープン）では当社ラケットとストリングの使用率が第2位※2となっています。それとともに世界中のテニスファンの間でもヨネックスブランドが浸透し、当社のテニス用品売上は北米、ヨーロッパを中心にグローバルで伸長しております。

世界のお客様からの高まる需要に応え、最新技術を備えた新工場を建設することで生産体制を強化し、新たな研究開発施設、既存工場と一体となった新次元のものづくりでお客様のプレーをサポートしてまいります。

※1 全豪：ハードコート、全仏：レッドクレーコート、全英：グラスコート、全米：ハードコート

※2 2023年全豪オープン本選出場者における男女合計のラケット使用率（当社調べ）



**【研究開発施設概要】**

1. 名称 Yonex Performance Innovation Center（仮称）
2. 所在地 新潟県長岡市高頭町中山
3. 延床面積 約 8,730 m<sup>2</sup>
4. 竣工 2024年6月（予定）

**【新工場概要】**

1. 名称 ヨネックス株式会社 新潟工場長岡B棟（仮称）
2. 所在地 新潟県長岡市高頭町中山
3. 延床面積 約 12,000 m<sup>2</sup>
4. 着工 2023年11月（予定）
5. 竣工 2025年6月（予定）